

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 輪島市立三井小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)
所在地 〒929-2363 石川県輪島市三井町興徳寺 10 字 29 番地
E-mail mies201@po.city.wajima.ishikawa.jp
Website http://cms1.ishikawa-c.ed.jp/~miixxe/NC2/htdocs/
児童数 男子 16 名 女子 6 名 合計 22 名
児童の年齢 7 歳 ~ 12 歳
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

2. 報告期間

平成 29 年 4 月 ~ 平成 30 年 3 月

※報告書提出時点 ~ 平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度 + 活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校は、ESD を「子どもたちが将来にわたって、より安全で安心に、そして公正に暮らせるための社会実現に向けての基盤づくり」と捉えている。そのために、身近な素材から課題を見つけ、その解決方法を考え、行動に移す過程を大切に、自然の中に出向き里山を守っていく環境が必要であることを理解させたいと考えている。

『のと里山空港』がある三井地区は、豊かな森林の中に茅葺き屋根が散在し、多様な生き物たちとの共生が可能な地区でもある。中でも水生生物の生息状況は、子どもたちでも簡単な活動で水質を判定することができる。また、校地内の一角には絶滅危惧種に指定されているクロメダカの育成のためのビオトープ池「めだかの学校」が設置されており、児童にとってクロメダカは身近な存在となっている。子どもたちは、これらの各種調査活動を通して環境問題への関心を高める良い機会とすることができると考える。

本校では、地元の NPO 法人や老人会等の指導を受け、地域が一体となった多様な取組が行われている。これからの取組は、子どもたちに地域の自然を伝えるとともに、豊かな感性を身に付けさせたいとの狙いのもと、進められているものである。

本校の以下の取組は、持続可能な社会の実現を担う児童の育成に資するものと考えられる。

①環境学習プログラム「まるやま学習」

地域の環境教育NPO法人「まるやま組」と連携し、環境教育プログラム「まるやま学習」に取り組んでいる。「まるやま学習」は単に自然を学習するだけでなく、地域の人々や産業とのかかわりなど、社会システムも意識した環境教育の場となっている。

②米作り体験活動

J A米づくり体験農園設置事業（いしかわ田んぼの学校推進プロジェクト事業）に応募し、公民館・老人会・日本航空高校石川の協力を得て、田植え・脱穀・稲刈・収穫祭の活動に、取り組んでいる。

③愛鳥モデル校・野鳥愛護校

平成28年度より、愛鳥モデル校及び野鳥愛護校に指定されており、愛鳥週間ポスターコンクール応募、巣箱・バードフィーダー・バードコール作り、講演会開催などの活動に取り組んでいる。

④三井の生き物観察

校地内に設置したビオトープ池「めだかの学校」において、絶滅危惧種であるクロメダカの採卵・孵化・飼育の一連の活動に取り組んでいる。また、このビオトープ池には、ホクリクサンショウウオやモノサシトンボなどの希少種も生息しており、合わせて観察ができるようになっている。



① まるやま学習(剥製)



② 米作り体験活動(田植え)



③ 愛鳥モデル校講演会(トキ)



④ クロメダカの稚魚(孵化)

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

特になし

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

①環境学習プログラム「まるやま学習」

低学年は生活科、中・高学年は総合的な学習の時間に位置付け、計画的に取り組むようにしている。また、学校行事のバス遠足では、「まるやま学習」のテーマと関連させた場所（加賀屋・兼六園）を見学地に設定している。

②米作り体験活動

学校行事（勤労生産・奉仕的活動）に位置付け、一連の活動に全校児童が参加できるよう計画している。その際、様々な世代の人たちと交流を図るため、PTAをはじめ、老人会・公民館・日本航空高校石川と連携している。

③愛鳥モデル校・野鳥愛護校

活動で取り組んできたことを、道徳の時間の関連する内容項目の指導に生かすようにしている。また、中・高学年は理科や総合的な学習の時間の中に関連する単元があるので、横断的な指導ができるよう計画している。

④三井の生き物観察

理科・生活科・総合的な学習の時間といった教科・領域の関連単元において、活用・発展的な内容として地域素材を扱うようにしている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

年度当初に、可能な限り詳しい年間計画を作成し共通理解を図っておくことで、見通しを持って取組を進めていくことができる。指導は、学級担任だけでなく、校長・教頭等も含め職員全体で指導に当たるようにしている。

活動によっては、公民館やNPO団体等の関係団体と連携して、地域全体で教育活動を進めることを意識している。そのために、関係団体と打合わせを密に行うようにしている。活動終了後には、関係者と取組について振り返り、その後の取組に生かすようにしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

年2回の学校評価の際に、教員による自己評価、学校評議員等による学校関係者評価で地域人材を生かした体験活動が充実したものとなっているかを評価し、取組の見直しにつなげるようにしている。また、児童アンケートや保護者アンケートも実施しており、児童や保護者の声も取組の参考にするようにしている。

<成果>

専門的な知識や技術を持っている講師を活用することでより質の高い活動に取り組むことができた。また、公民館等の関係団体との連携の重要性について確認することができた。

<課題>

高校生の参加する行事があるものの、純粋な地域の人材については高齢化が進んでおり、人材の確保が大きな課題となっている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（200字程度）

※チェック事項 2-2 に対応

主に、「学校だより」と「ホームページ」を使い、各種教育活動の広報を行ってところである。その際、その活動が、ESDを推進するための2つの観点である、①人格の発達や、自律心、判断力、責任感などの人間性を育むこと、②他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し、「関わり」、「つながり」を尊重できる個人を育むこと、を踏まえた取組であることを紹介し、その観点から活動を評価し伝えるようにする。その結果、観点を意識した取組を推進できるようになってきている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）（200字程度）

※チェック事項 2-3 に対応

まるやま学習は環境教育NPO法人「まるやま組」と、地域の先生を活用する活動については主に公民館と連携し推進している。地域の現状から、これ以外の組織・団体を新たに開発することは難しいので、現在取り組んでいる各種活動をより充実し、質の高いものへと変えていくことが大切だと思われる。今連携している組織・団体を通じてネットワークを拡大することはできないものか検討中である。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）
※チェック事項 2-4 に対応

奥能登地区には、ユネスコスクールが殆ど無いため、現時点では特に交流は行っていない。県内・国内のユネスコスクールが可能かどうか検討した。

A C C U（ユネスコ・アジア文化センター）のユネスコスクールのホームページ等を参照するなどして、他校の取組について知るとともに、本校の取組の見直しの際に参考にしている。

⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

学校が取り組む各種の教育活動が、E S Dの視点でつながりあっているということを、教員自身が認識することが大切であり、教員は今まで以上に教育活動に計画的・意図的に関わっていかなければならないと感じている。

また、環境教育プログラムN P O法人「まるやま組」との連携が今後も継続できるような体制作りを進めていきたい。

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

豊かな自然に恵まれた地域環境を生かした教育活動を今後も推進していく。今年度も以下の活動に引き続き取り組んでいくが、その際、E S Dの観点を踏まえながら児童の指導に関わるようにする。

①環境学習プログラム「まるやま学習」

今年度は、活動範囲を広げすぎないようにし、三井地区の自然・人・産業等をより深く理解する活動に取り組む。

②米作り体験活動

例年通り、様々な世代の参加者とともに活動し、「関わり」や「つながり」を尊重する心を育成するようにする。

③愛鳥モデル校・野鳥愛護校

野鳥観察や巣箱作りなどの体験活動を重視するとともに、自然を愛する心・態度を育成したい。

④三井の生き物観察

珍しい生き物の存在だけにとらわれず、そのような環境を守るために自分たちがどう関わっていけばよいのかを考えるようにする。